

第2分科会 <第1分散会研究課題> 豊かな心の教育の充実を目指す教育課程の編成と校長の在り方

研究発表 「よく考え 心豊かで いきいきと活動する子」を育成する教育課程の編成

愛媛県 宮窪町立宮窪小学校 矢野 重久

趣 旨

現在の社会に目をやると、青少年による凶悪事件の続発、保護者による信じがたい児童虐待等目を覆いたくなるほどのモラルの喪失が見られる。

このような社会情勢の中で、学校教育に求められていることは、児童・生徒に「豊かな心」を育むことであり、調和の取れた人間形成であると考えます。

そのためには、学校教育全体で行う道徳教育をよく吟味し、道徳の時間で行う指導の充実を図るとともに他の教育活動のよさを生かしこれらを有機的に結び付けて指導することが大切である。

また学校の取り組みだけではなく、家庭や地域の教育力を生かして、より大きな力で子どもの心を育てていくことも重要である。

そこで校長としてこれらの取り組みをどのようにして実践していったか、校長の在り方を究明していきたい。

(平成14、15年度 玉川町立九和小学校における実践)

研究の概要

1 学校経営方針

新しい学習指導要領の下でのスタートに際し、学校経営方針について見直した。

(1) 学校の教育目標

「よく考え 心豊かで いきいきと活動する子」の育成

(2) 望ましい児童像

全教職員にアンケートを実施し、校長の指導の下、望ましい児童像を決定した。

- ① ねばり強く努力する子
- ② 思いやりのあるやさしい子
- ③ 命を尊び心身ともに健康な子

(3) 望ましい教師像

これからの学校教育を担う教師は、どのような教師がふさ

わしいか、教職員にアンケートを実施し、校長の思いを加味して望ましい教師像を決定した。

- ① 常に課題意識をもち自己変革を欠かさない教師
 - ② 感性と教養の豊かな人間的魅力のある教師
 - ③ 児童の目線に立ち敏感適切に対応できる教師
- なお、学校運営上、教職員の健康管理と明るい職場づくりに絶えず配慮している。

2 新しい出発に際して

(1) 総合的な学習の時間の計画

2年間の試行期間の実践を踏まえ、地域にある豊かな教育資源を最大限に活用することを基本方針として、総合的な学習の時間の年間指導計画を作成した。以下は、各学年の主な活動である。

学年	テーマ	学習内容
3年	ふるさと「玉川」 <人>	玉川の秘密「シイタケ」を育てよう
4年	ふるさと「玉川」 <自然・文化>	国宝に指定されている銅宝塔はどんなものだろう
5年	ふるさと「玉川」 <伝統・産業>	竹炭のよさや、作り方について調べてみよう
6年	ふるさと「玉川」 <環境・福祉>	ふるさと玉川の環境や福祉問題を学習しよう

(2) 学校行事の見直し

本校は、「仲良く がんばれ」の校訓のもと、仲間づくりに取り組んできた。

特に、近年は、異年齢の縦割り集団を活用して仲間づくりに取り組んでいる。また徳教育の観点から学校行事をとらえ直し、校長として、教職員が行事の教育的な意義や一年の流れ、関連性についてしっかり理解したうえで実践に取り組めるように努めた。

① 親子奉仕作業

親子で、学校の環境を整える奉仕作業に取り組む。

② 運動会

ア 「最後までがんばる」をめあての一つに入れて実施する。

イ 地域のお年寄りを招待し、児童がプレゼントを

わたす。

(地域参観日につながる)

③ 地域参観日

地域の人たちに学校を理解していただくと同時に、地域の人たちと触れ合う場とする。

④ 見学遠足

マナーの実践の場でもある。

⑤ 若竹発表会・児童慰労会

ア 1年間学習してきた学習の発表の場

イ 感謝の心と、マナーを学ぶ場

⑥ ふるさとふれあいウォーク

ア 仲間とともに高め合う集団づくりに取り組んできた一年間の活動の集大成

イ 地域の人たちと触れ合う場

3 道徳教育の推進

(1) 重点指導目標の決定

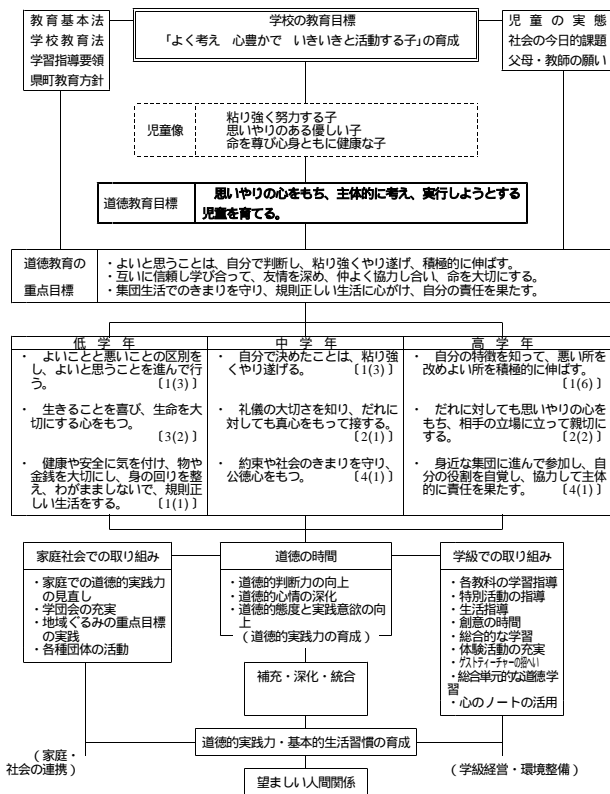
① 保護者が本校の児童をどうとらえどう育つことを願っているのか調べるために、道徳教育について意識調査を実施した。

② 意識調査をもとに重点指導目標を決定した。

(2) 全体計画の作成

学校の教育目標の実現に向け、全教育活動の充実を図るため、全体計画を作成した。作成に当たっては、学校評価を生かした。

<全体計画>



(3) 年間指導計画の作成

年間を通しての道徳の時間の充実を目指し、年間指導計画を作成した。

特に、道徳年間指導計画主題一覧表の関連事項が一目でよくわかるよう工夫した。

<道徳年間指導計画主題一覧表>

〔第1学年〕

月	主題名	価値項目	資料名	人権教育	総合学習	体育	芸術	ゲストティーチャー	心のノート活用
4	みんなの学校	4-(3)	たのしみがいこう						
	だれとでも仲良く	2-(3)	あそぼう						
5	時間のきまり	1-(1)	ちやんがなりました						12-15
	元気な声で	2-(1)	あいさつ						30-33
	危険から身を守る	1-(1)	あふぬい あふぬい						
6	大きなあれ	3-(1)	ぼくのあさがお						48-49
	ありがとうの言葉を	2-(4)	ありがとう						
	大切に使う	1-(1)	おれたクレヨン						
	わきでる力	3-(2)	でてるから						
7	黙って聞いて	1-(3)	へゆらくがき						
	がんばる心	1-(2)	うかんだうかんだ						
	わがままなれい	1-(1)	かばちゃのつる						

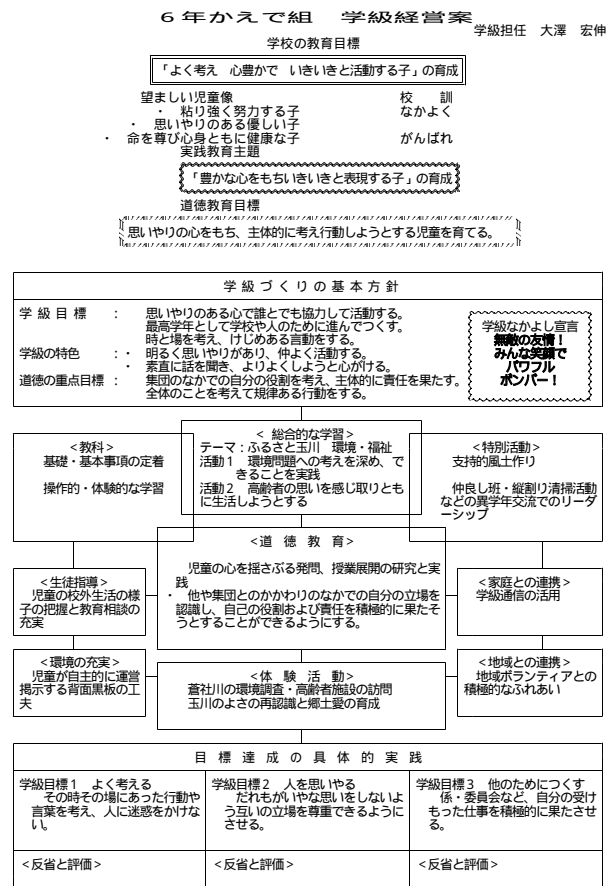
(4) 学級経営の重視

学校生活の基本単位は、学級であり学級経営が果たす役割は大きなものがある。

そこで学級経営を重視し、道徳教育を核とした学級経営案を作成することにした。

学級経営を、道徳の指導計画と結び付けて行うことによって、主体的に行動できる道徳的実践力の育成につながっていくと考えた。

<学級経営案>



4 総合単元的な道徳学習の推進

(1) 総合単元的な道徳学習の意義

子ども主体の教育活動を行うためには、子どもの意識を中心に、学習活動がその流れに沿って展開される必要がある。しかし、道徳の時間だけでは、観念的な学習になったり道徳的な価値を教え込んだりする危険性がある。

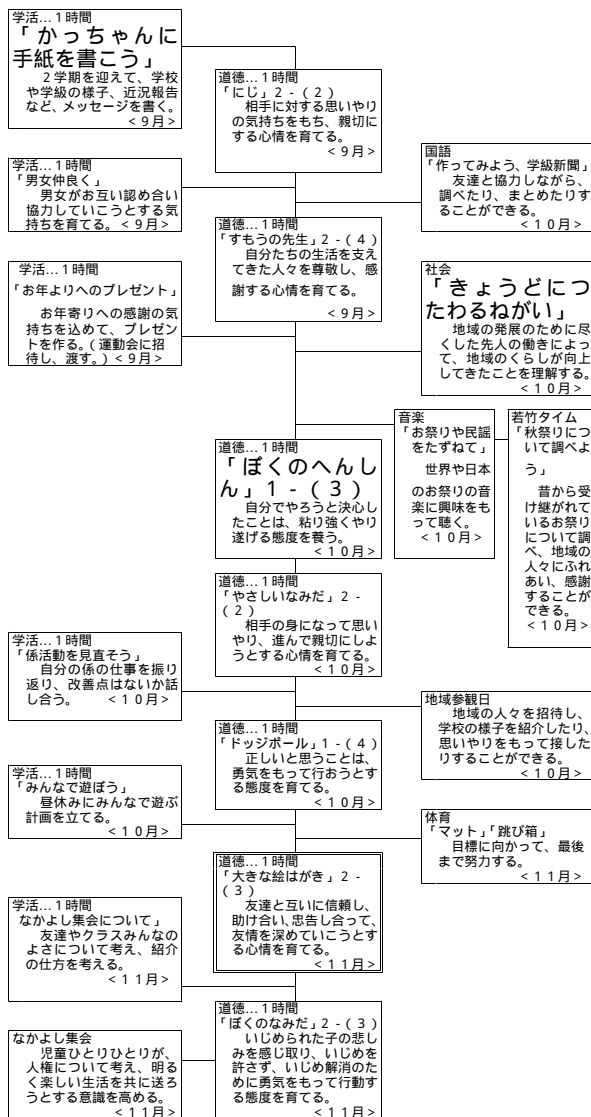
そこで、道徳の時間と、その前後に子どもが主体的に関わる学習を関連して行い、その一連の学習を通してより確かな道徳教育を目指した。

(2) 単元作成上の留意点

- ① 学級担任の、こんなクラスにしたいという児童に対する願いが出発点になる。
- ② 自然な形で、有機的に関連付ける。
- ③ 最初から、完成されたものではないので、まず作成し、実践し、そして改善していく。
- ④ 総合単元的な学習の意義について十分理解し、全校で共通理解をもった上で実践する。

<総合単元的な道徳学習構想>

- 4年生 総合単元名「目標に向かって」-



総合単元的な道徳学習の構想を立てることによって、全教育活動の中に、道徳がしっかり位置づけられ、道徳を核とした学級経営が充実していった。

(3) 学級担任の自己評価

- ① 学級づくりの一つの手段として総合単元的な道徳学習を構想し、実践することにより、学級の子もたち一人一人の気持ちを汲み取ることができた。また、子どもたちの考えを大切に活動を進めたことにより、一人一人に主体的ながんばりが見られるようになってきた。
- ② 学級としての仲間意識を高めることができ、学級経営を充実させることができた。
- ③ 単元の中の道徳の時間のあり方を考え、授業に工夫を加えたことにより子どもたちが道徳の時間を楽しみにし、狙いたい主題に関して、子ども自らが主体的にかかわっていきこうとする意欲や態度が見られるようになってきた。

5 道徳の時間の指導

道徳の時間が、学校教育全体で行う道徳教育を補充・深化・統合する時間として効果的な時間になるような指導の工夫が必要である。そのため、特に以下の点に留意して指導に取り組んでいる。

- (1) 問題追求的な学習展開の工夫
- (2) 「体験」を生かす活動の工夫
 - ア 資料の活用や発問の工夫
 - イ 模擬体験や追体験などの活動
- (3) T・T指導やゲストティチャーによる指導の工夫
- (4) 心のノートの活用
 - (ア) 心のノート活用一覧の作成
 - (イ) 活用方法の工夫

<授業例 第2学年「あいさつっていいな」2-(1)>

学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の工夫 評価
1 自分のしているあいさつについて振り返る	心のノートで、自分のあいさつについて振り返ってみましょう。	心のノートを活用し、普段の自分のあいさつについて思い出し、本時の学習への方向付けとする。
2 資料「あいさつっていいな」を読み、あき子の気持ちを考える。	あき子が「おはよう」と言った時、どんな気持ちになるでしょう。 ・ あいさつしてよかったな。 ・ うれしいな。 ・ こんどがんばろう。	「おはよう」のあいさつにまつよって、まわりがよい雰囲気になった子、ほめられたと感じた子、あき子のうれしさを共有させた。
「ごめんね」と言って、かずみと仲直りができたあき子は、どんな気持ちでしょう。 ・ よかったな。 ・ けんかはやめよう。 ・ ずっと友達だよ。	どうして、仲直りできたのでしょうか。 ・ すぐにあやまったから。 ・ 悪かったなと思ったから。 ・ 友達だから。	あき子とかずみの立場になって、仲直りできた喜びを実感させた。
いろいろなあいさつを思い出そう。 ・ おはよう ・ こんにちは ・ さようなら ・ ありがとう	自分の気持ちを話し合わせていくためには、心のごもごもであることに気づかせたい。	自分の気持ちを話し合わせていくためには、心のごもごもであることに気づかせたい。
お母さんに、「あいさつは小さな願い」と言われたあき子は、どんな気持ちになったでしょう。	手話のあいさつに気づいた児童のうち、やさしく丁寧に、歌い、意欲化を図りたい。	ワークシートに書かせることにより、あき子の気持ちを共感的にとらえ、あいさつを必要とする場面、あき子の気持ちに共感することができた。

6 児童への働きかけ

(1) 毎朝の挨拶

校長が毎朝全校児童と挨拶

(2) 朝礼での呼びかけ

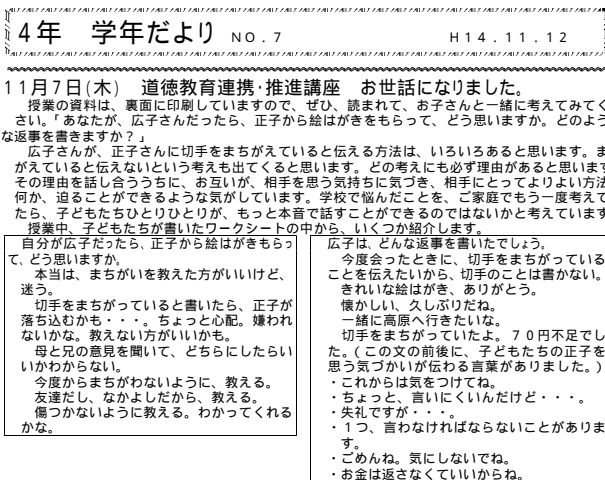
よい挨拶について

協力して清掃活動ができている班の紹介

7 家庭や地域との連携

(1) 学級便りを活用して

学級便りに、道徳の時間の児童の反応を載せることにより児童がどのように考えているのか、保護者に知らせた。またそのことに対する保護者の反応も載せ、双方向の学級便りとした。



ご家庭でのお子さんの様子、気になること、道徳の資料についての話し合いの様子など、教えていただけると幸いです。(いつも、いろいろなご意見・ご感想ありがとうございます。)

お名前()

(2) 地域性を生かした学校行事

運動会における「敬老のおくりもの」

地域参観日

ふるさとふれあいウォーク

ア 地域の人々と触れ合う活動

イ 地域の豊かな自然・文化を体感する活動

ウ 児童のよい行いを発見して賞揚する場

< 賞揚 >

九和っ子ふれあいウォーク
校長先生

みんなのことを見守ってくれたで賞

九和小なかよし()はん
がんばりましたね!!
平成16年3月11日

ま と め

1 成果

- (1) 道徳や総合的な学習の時間において、指導計画の見直しと立案を行うことによって目的や内容を明確にすることができ、いろいろな角度からの効果的な指導を行うことができた。
- (2) 学級づくりの一つの方法として、総合単元的な道徳学習を構想し実践したことにより指導のポイントを焦点化し、子どもたちの考えを大切に活動を進めることができ、児童一人一人に主体的な態度が見られるようになってきた。
- (3) 他の教育活動や地域を巻き込んだ道徳教育を推進していくことにより、保護者の意識も高まり、開かれた学校づくりに役立っている。
- (4) 教職員が切磋琢磨できる集団に成長した。
同僚の実践に対し、積極的に発言できる。
問題点について提言できる。
- (5) わずかではあるが、児童の変容が見られた。
自分から進んで挨拶できる児童が増えてきた。
上手に掃除ができるようになり、(縦割り班で行っている)学校が隅々まできれいになった。
豊かな感性が育ててきた。(朝の挨拶の中で感じる
ことができた。)
地域での挨拶がよくなった。(地域の方のお話より)

2 課題

- (1) 単元を構成する段階で、担任が自分のクラスをどう作っていくか、担任が何にポイントを当てて指導していくかと言う点から構想の仕方は違ってくる。子どもの主体性の育成を目指した構想の研究をしていく必要がある。
- (2) 絶えず気に留めていないと、よい状態が崩れる。不断の努力、根気強い継続的な指導取り組みが求められる。
- (3) 最大の教育環境は、指導に当たる教師であり、このことを思うとき、資質向上のための一層の努力が求められる。
- (4) 校長が、指導力を発揮するためには、指導できるだけの力量がなくてはならないし、教職員との間に信頼関係が築かれていなければならない。校長の自己研鑽が切に望まれる。